

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（2月）

留学先：東呉大学

<はじめに>

你好！こんにちは！2月23日から6月末までの約4か月間、台湾の東呉大学で交換留学生として派遣されることになりました。この月例報告書には、台湾での留学を通して経験した、授業・寮生活・台北での暮らしについて報告していきたいと思っています。東呉大学は台湾の首都である台北市に位置しているということもあり、福井とは違った都心部ならではの生活についても取り上げようと思います。

この報告書が、今後台湾に留学しようと思っている学生さんの助けになれば幸いです。今回は初めての月例報告書なので、主に台湾に到着するまでのことや東呉大学での新生活、授業選択などについて書いていきます。

<東呉大学に到着するまで>

関西国際空港から台北の桃園空港までのフライトは三時間かかります。空港到着後、夕方まで大学側のバスによるピックアップサービスがあるので、東呉大学に留学する際はぜひ利用してください。（自力で行くとなるとMTRとバスの乗り継ぎがあるのでかなり面倒です）また私の場合、今回飛行機の出発が四時間程遅延するなどのトラブルがありましたが、ピックアップの時間を臨機応変に対応・調節してもらえました。遅延のせいで私は参加できませんでしたが、早めに大学に到着した学生はグループでハイパーマーケットという日用品などが買える大規模なお店で、生活に必要なものを買っていたそうです。



<東呉大学での新生活>

アジア系の留学生は、主に Waishuanghsi キャンパスの敷地内にある、Feng Ya Hall という寮に住みます。こちらは2人もしくは4人部屋の学生寮です。（同じキャンパス内に8人部屋の量もあります）私は4人部屋で生活しており、他のルームメイトは中国大陸の生徒が2人、韓国からの生徒が1人います。中国から来た生徒は語学を学ぶのではなく、専門の授業を受講しに留学したそうです。また、ヨーロッパ

系の留学生と話したところ、彼らは Waishuanghsi キャンパスから 40 分～50 分離れたところに住んでいると言っていました。留学でたくさんの国から来た生徒と交流したいと思っていたのですが、欧米から来た生徒とは接する機会が授業くらいしかないのが残念です。

東呉大学は日本語学科が有名な大学です。その為日本語を喋ることのできる学生も多く、私のバディスチューデントも日本語学科の学生です。

〈授業選択〉

東呉大学では、主に中国語（台湾語）の授業と英語開講科目の授業を選択しています。留学生は必ず中国語と、東アジアの社会もしくはマネジメントにかかわる科目を1つ以上履修しなければいけません。交換留学生の最大取得単位数は25単位です。



添付画像は東呉大学の一般的な教室の風景です。机と椅子が一体型になっているのが独特でした。

東呉大学の授業は、リーディングやライティングなど英語を学ぶ授業はもちろん、社会学やリベラルアーツ、多文化共生系の学問（国際地域学部の授業でいうと Society Today や Multicultural Understanding の範囲）が英語で学べるので、興味のある内容の授業が多かったです。中国語が得意な学生は中国語開講科目も受講することが出来ますし、日本語学科の3・4年生の授業は日本についての内容を先生によっては日本語で行っているものもあります。2018年春学期の英語開講科目については参考までに URL を添付しておきます。（閲覧時期によってはリンク切れの可能性もあります）
https://docs.google.com/spreadsheets/u/1/d/e/2PACX-1vRBnEzupK3nlgpinOpaRyyYKy0N5igDpfba7GdHwuubUxSpF1Se0k00E1hdM7BaUBBHaLE7wK3H_rRT/pubhtml

〈終わりに〉

今回は最初の報告書ということで、主に東呉大学に留学したい人向けの概要的な内容にしました。今後は台北という都市について、また台湾での生活についても書いていきたいと思います。2017年春学期に留学を始めた国際地域学部の学生は私のほかに4人いるので、興味のある人はそちらも参考にしてください。また次回の月例報告書でお会いしましょう。再見！